

## 臨時国会開会 多彩な行動要求実現へ

臨時国会が始まった10月26日、国民の切実な要求の実現を新政権に求めていると、国会内外で多彩な行動がとりくまれました。山梨からは2人が参加しました。

激しい雨が降るなか、日比谷公園から国会に向けた請願デモが行なわれました。(主催=国民大運動実行委員会、安保破棄中央実行委員会、中央社保協、国交労連・東京国交)

300人が集まり、労働者派遣法の抜本改正や、後期高齢者医療制度の即時廃止、沖縄・普天間基地の返還などを求めるシュプレヒコールをあげながら、官庁街を行進しました。

デモ出発にあたってあいさつした、中央社保協の相野谷安孝事務局長は「鳩山政権は羅針盤をもたない船のように右往左往している。私たちの声と運動で、要求実現を求めている」と呼びかけました。

その後、「国民要求の実現を求める10・26院内集会」が開かれ、100人が参加しました。(主催=国民大運動実行委員会、安保破棄中央実行委員会、中央社保協、年金者組合)

集会の冒頭で、全労連の大黒作治議長は、「国民は本格的な政治の転換を求めている」と指摘。年末年始に向けて国民生活に深刻さが増しているもと、「多くの国民と連帯して国民生活を改善するとりくみをしたい」と

あいさつしました。

集会では、年金者組合、全商連、安保破棄中央実行委員会の代表が決意表明し、日本共産党の穀田恵二国対委員長が、国会情勢を報告しました。



山梨から「中央集会」に参加し、都内をパレードする人たち 11月22日

## 医療・介護労働者が集会 東京

「社会保障費を増やして、国民のための医療・介護へ転換させよう」と、4000人を超えた医療・介護労働者、住民が10月22日、東京・日比谷野外音楽堂で中央集会を開きました。

山梨からは68人が参加しました。

集会では、後期高齢者医療制度を直ちに廃止することや、診療報酬・介護報酬の引き上げ、医師・看護師・介護職員を増や

すこと、患者・利用者負担軽減、社会保障費増額などを求めるアピールが採択されました。集会后、参加者は「社会保障費を増やせ!」と書かれたそろいのタオルや横断幕などを手に都内をパレードしました。

集会の主催者あいさつで、日本医労連の田中千恵子委員長は、政権を変えた力に確信をもち、医療・介護労働者と国民の共同の運動で国民本位の医療・介護への変革をと呼びかけました。

各団体、政党から連帯、激励のあいさつが続きました。

日本看護協会の小川忍常任理事は、労組や医療関係団体とも

連帯して、人員配置の抜本改善でゆとりある看護現場づくりをすすめる、とのべました。

日本共産党の小池晃参院議員は、軍事費のむだづかいと大企業・大金持ちへの優遇税制をやめさせて、医療・介護をよくする政治を実現しようと呼びかけました。

漫画家のやくみつるさんが激励あいさつをしました。

集会では、山梨県医労連の中村吉秀さんが司会を務めました。

同集会は、全労連の医療・福祉関係労組や医療団体、中央社保協などで行う実行委員会が主催しました。

## 山梨県社会保障学校に65人

山梨県社保協は10月13日、甲府市の県立文学館研修室で、「山梨県社会保障学校」を開きました。65人が参加し、中央社保協の相野谷安孝事務局長(全日本民医連理事)が「社会保障運動の新しい展望と課題」と題して講演しました。

相野谷氏は、自民党体制が崩壊したことや、新政権の政策に社会保障充実を盛り込ませたことの意義を解説し、「すべての人が平等に人間らしく生きられる社会の実現へ、いまがチャンスです」と話しました。

民主党を中心とした新政権については、「どちらへ向かうのかは国民の運動次第です」と指摘しました。

参加者は、4項目署名をすすめることや、要求を掲げた集会、行動を成功させること、貧困による犠牲者を出さない取り組みを進めることなどを確認しました。

参加者からは「政権が変わった今、自分たちが何か行動をおこさなければならないと思いました」「個人の責任で自身をせめ続けていくことがないような、社会保障される心豊かな国となるよう、力を合わせてすすめていきたい」「今の日本は『生きることが保証されていない国』ということ意識しなければならないと痛感しました」などの感想が寄せられました。

## 4項目署名を訴え

山梨県社保協は10月15日、甲府駅南口で、後期高齢者医療制度の即時廃止を求める街頭行動をしました。(写真)

この日は、新政権発足後最初の、年金からの保険料天引き日です。

街頭行動では、「制度が長引けば長引くほど、保険料値上げや、保険料を払えない人からの保険証取り上げなどの被害が広がります。1日も早く廃止しましょう」などと訴えながら、4項目署名を集めました。



## 民主・坂口議員が賛同

中央社保協は10月19日、4項目署名への協力を求める文書を、全衆院議員に送りました。

10月29日現在で42人から回答が届きました。山梨県関連では、坂口岳洋議員（民主党、山梨2区）から、「賛同し、紹介議員に協力する」との回答がありました。

(注) 4項目署名とは ①後期高齢者医療制度廃止、②生活保護母子加算復活、③障害者自立支援法廃止、④利用者負担を増やさずに介護報酬を引き上げること、を求める緊急署名のこと。

## 廃止法案提出を要請

山梨県社保協は10月17日、後期高齢者医療制度廃止法案を臨時国会へ提出するよう求める文書を、長妻昭厚生労働大臣に送りました。

このなかで県社保協は、「廃止は与党三党で合意されています。新政権は国民への責任をはたすべきです」と指摘しました。

## 母子・老齢加算は無条件・早期に復活を

山梨県社保協は10月21日、生活保護母子加算・老齢加算の無条件・早期復活を求める文書を、内閣総理大臣、財務大臣、厚生労働大臣の3氏に送付しました。

母子加算復活をめぐるのは、実施時期が「10月からの実施」から「年内実施」へと後退しました。母子加算復活と引き換えに、高等学校等就学費や学習支援費を廃止する動きがあります。

要請書では「高等学校等就学費や学習支援費は、それぞれ目的を持ち、母子加算復活と無関係です。これらを廃止することは断じて容認できません」と指摘し、母子加算、老齢加算の無条件、早期復活を求めました。

# 後期高齢者医療制度廃止、安心の年金へ



甲府市内を行進する、年金者組合の人たち 10月15日

## 各地で“一揆”

年金者組合山梨県本部は10月15日、県内各地で、最低保障年金制度の創設などを求める行動に取り組みました。

甲府市では「年金者一揆2009 in 山梨」集会が開かれ、「安心して暮らせる年金を」などと大書されたムシロ旗や横断幕を手に50人が参加しました。

「後期高齢者医療制度を廃止しろ」「最低保障年金制度をつくれ」などとシュプレヒコールをあげた後、市中心街をパレードしました。

集会では、山梨民医連、山梨県労、新婦人県本部、共産党県委員会、県社保協の代表が連帯のあいさつをしました。

## 移転訓練中止、富士を撃つな 甲府で集会

沖縄米軍による県道104号越え実弾射撃訓練の本土移転演習が、北富士演習場で11月2日から13日までの12日間実施されることを受け、「米海兵隊の北富士移転訓練中止、富士を撃つな10・21山梨県集会」が10月21日、甲府駅南口で開かれました。(写真)

主催は「沖縄米軍は北富士に来るな県連絡会」と「安保破棄県実行委員会」です。

集会には100人が参加。「日本防衛と全くかわりのない米海兵隊第12連隊の訓練は、地位協定違反、北富士演習場使用協定違反です。移転訓練中止を米国に求めることを、新政権、

県に求めます」などと訴える決議を採択しました。

